

公益財団法人 豊田都市交通研究所 研究成果報告会

平成30年度 研究活動概要

研究部長 安藤良輔

令和元年7月3日（水）
豊田産業文化センター小ホール

1

目次

- 1 平成30年度からの中期ビジョン
- 2 平成30年度研究テーマ一覧（配布）
- 3 研究所評価プロセス
- 4 評価指標を用いた評価の結果

2

サステイナブルなモビリティ社会の実現

1. 平成30年度 からの 中期ビジョン



3

1. 平成30年度からの中期ビジョン

研究所の事業

- (1) 調査・研究事業：
政策につながる学術的かつ実践的研究の実施
- (2) 政策提言事業
研究成果に基づく政策の提言
- (3) 情報発信・交流事業
国内外への研究成果の発信・先進的知見の収集と発信

4

2. 平成30年度研究テーマ一覧(配布)

- ① 自主研究13件+受託研究25件（うち、「受託」年度当初計画の9件から大幅な増加）
- ② 「暮らしを支える交通」：自主5+受託6；「都市空間を創出する交通」：自主5+受託8；「交通の安全・安心」：自主3+受託11
- ③ 従来の4分野から2つの方向性と一つの重点課題に変更したため、テーマの対象範疇の単純な比較はできなくなったが、新しい方向性として位置付けた「都市空間」関連のテーマが増加したのは明らかであり、新中期ビジョンにおける強化すべき方向性は形成しつつあると言える。
- ④ 本日の報告：
 1. 都心の現状（西堀主席研究員）→都心環境計画の確実な前進を支援する
 2. 後付け先進運転支援システムと高齢者運転（楊主任研究員）→高齢運転者による事故が目立った社会情勢を念頭に
 3. 高齢者の交通安全グランドデザイン（受託）（三村主席研究員）→「ワーストワン」返上の早期実現を目指して

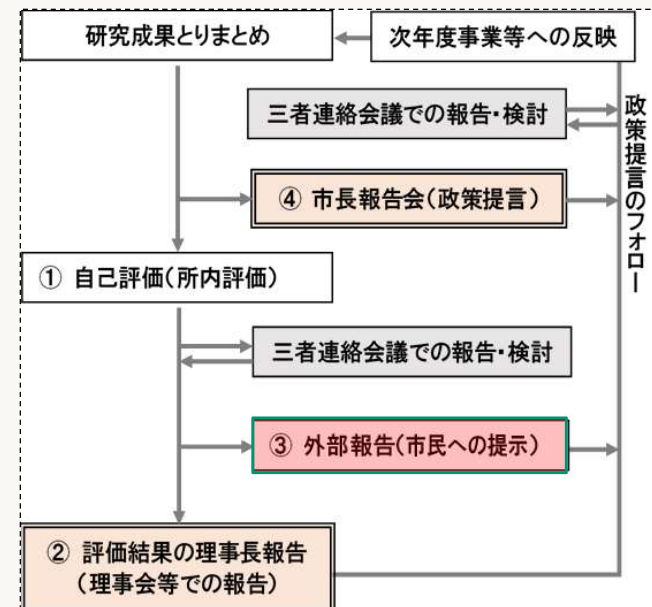
5

4. 評価指標を用いた評価の結果

役割	評価指標	H28-29平均	H30
① 広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	18	16 ↓
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	17.5	27 ↑
	3) 論文賞等の受賞	0.5	1 ↑
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕 競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	1 2.5	2 ↑ 4 ↑
② 交通まちづくりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	7.5	12 ↑
	6) 受託研究の受注件数（件）	14.5	25 ↑
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	15	35 ↑
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	40.5 23	37 ↓ 34 ↑
③ 世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	13.5	15 ↑
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催（平成30年に太田前所長の退任に併せて開催）	0	1 ↑
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.5	0 ↓
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5 →
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催回数、イベント出展	13.5	15 ↑
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.5	2 ↑
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	9 →

7

3. 研究所評価プロセス



6

4 評価指標を用いた評価の結果：総括

- ① 豊田市をはじめとする地方都市への貢献を強く意識したことにより、地域に関わるテーマやその結果として行った政策提案が多くなった。
- ② 新中期ビジョンの検討で中長期的課題である財政の問題を強く意識して、受託研究の件数を大幅に伸ばすことができた。
- ③ 中長期的財政課題への対応と研究所のプレゼンスの向上を念頭に置いた研究員の積極的な外部資金の獲得への努力の結果として、競争的研究資金の獲得件数、特に、科研費以外の資金の獲得は堅調に伸びた。

8

4 評価結果：総括(続き)

④新中期ビジョンの開始に併せて、平成30年度初めから研究員の外部兼務に一定の条件を設けるルールが制定されたため、委員や非常勤講師等の件数が減少傾向となった。しかし、「講演」を多く行うことで国内外への研究成果の還元ができたため、「地域活動への貢献」については、これまでと遜色のない実績を挙げた。

⑤査読付き論文数がやや減少したが、査読なし論文数が増えたため、現時点で研究成果に大きな影響ないとする。ただし、この結果は受託件数や地域対応で業務が忙しくなったことが多少なりとも影響していると考えられるので、今後、「研究所」としてのプレゼンスを維持するため、適切なバランスを検討していく必要がある。

総じて、5か年度の初年度として、決定した方向性で上々な滑り出しの一年間であったと評価する。

ご清聴どうもありがとうございました。